

4. 産業経済の課題

基礎データによる阿賀野市の現状

- 【人口】
 - ・平成7年の48,828人をピークに人口減少へ。
- 【就業】
 - ・市在住就業者約23,800人のうち、37%に当たる約8,900人が市外で就業。
 - ・第1次産業の比率(11.5%)が比較的多い就業構造。
- 【農業】
 - ・農家数減少、特に兼業農家激減(約20年間で4割減少)。農地面積の減少。
 - ・農業従事者の高齢化(H22年現在80.5%)。
- 【建設業】
 - ・他市町に比べ事業所比率が高い(20.5%)が事業所数は減少(H18年480件)。
- 【製造業】
 - ・事業所数及び従業者数(S60年5,431人→H20年4,464人)の減少。
- 【商業】
 - ・小売業数の減少(H6年711件→H19年571件)。市内での買物利用客の減少。
 - ・小売業従業者は2,500人、卸売業従業者は386人。
- 【観光】
 - ・観光客の減少(H11年1,895千人→H21年1,448千人)。
 - ・瓢湖水きん公園311千人、サントピアワールド等192千人、うららの森159千人、村杉温泉117千人などへの入込客が中心。

事業所アンケート

- 経営上の問題
- 【農業】
 - 農地集約化・規模拡大できない
 - 販路と生産一貫性がない
 - 後継者不足、高齢化、労働力不足
 - 価格下落
- 【製造業】
 - 営業力不足、受注減、経費節減できない、資金確保できない
- 【建設業】
 - 営業力不足、公共事業の縮小
 - 経費節減できない、職人の減少
- 【サービス業】
 - 固定客減少
 - 新規顧客の確保ができない
 - 経営コスト削減ができない
 - 大型店との競争

阿賀野市を取り巻く環境変化

- 【社会経済情勢の変化】
 - ・高齢化・少子化の進展
 - ・長引く経済低迷と財政悪化(借金の拡大)
 - ・社会保障負担の増加(医療費、介護、年金・・・)
 - ・建設工事等、社会資本投資余力の減少
 - ・東日本大震災復興への注力
- 【市民意識の変化】
 - ・経済情勢悪化、老後への不安などの中で消費抑制
 - ・原子力発電所問題を含み電力消費や環境問題への認識の高まり
 - ・「モノの豊かさ」から「心の豊かさ」への意識の変化
 - ・観光の質の変化(団体から小グループへ、物見遊山から体験・交流へ)
 - ・こだわり志向、ふるさと回帰、人どうしのふれあい・絆への関心
- 【物理的变化】
 - ・県営東部産業団地の約100haの残地
 - ・東部産業団地における全国自治体初の1メガワット太陽光発電所稼働
 - ・国道49号沿いで郊外型店舗の立地が進展
 - ・国道49号バイパス建設の進展

市民アンケート

- 一般市民アンケート
- 産業経済活性化の切り札
- ① 地産地消
- ② 企業誘致
- ③ 阿賀野ブランド創出
- ④ 市内商店街の消費拡大
- ⑤ 全国イベント開催
- 新潟市民アンケート
- 阿賀野市のブランド
- ① ヤスダヨーグルト
- ② 瓢湖・白鳥
- ③ サントピアワールド
- ④ 安田瓦
- ⑤ 五頭温泉郷

専門部会

- 専門部会での意見
- 問題点
- ① 利益率の低下
- ② 知名度の不足
- ③ 高齢化・後継者の不足
- ④ 消費低迷・流出、価格下落
- ⑤ 販路不足
- 今後の方向性
- ① 異業種交流、連携
- ② 地元消費の拡大
- ③ 魅力のアップ
- ④ 他社との共同開発
- ⑤ 地域密着型
- ⑥ 全国への発信

阿賀野市の産業経済の課題

- 【共通】 人口減抑制(転出抑制)のための「就業の場」の創出
地域ブランドの構築と産業振興に向けた体制の強化
- 【農業】 経営基盤の強化により若者にも魅力のある産業として確立
農業の6次産業化など、農業の新たな仕組みやビジネスの創出
- 【建設】 建設業の技術や経営資源の活用、産業連携などによる活性化
既存資源を活用した新規事業開拓
- 【製造】 安田瓦などの技術や伝統産業の活用と他産業との連携などによる産業振興
東部産業団地の有効活用による産業集積と就業の場確保
- 【商業】 立地環境や地域資源を活かした中心商業地の特徴付け、中心市街地活性化
他産業との連携、他店との協働などによる商業活性化
- 【観光】 既存観光資源の魅力のさらなる強化、新たな観光資源の発掘
観光資源の相互連携による一体性強化、他産業との連携による観光活性化